

2-6		主題	視点をかえてみませんか？	
認知症ケア		副題	従来型介護老人福祉施設での環境への取組み	
環境への働きかけ				
研究期間	18ヶ月	事業所	練馬区立大泉特別養護老人ホーム	
発表者：柳川 麻子（やながわ あさこ）			アドバイザー：児玉 桂子（こだま けいこ）	
共同研究者：小竹 秀一、新井 信行、櫻井 孝行				
電話	03-5387-2201	メール	ooizumi-sw@nerima-swf.jp	
FAX	03-5387-2144	URL	http://www.nerima-swf.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成11年4月に開設、特養120床、ショートステイ15床、デイサービス（一般型40名、認知症対応型12名）、居宅介護支援事業所、訪問介護、ケアハウスなどを併設しています。近くにショッピングセンターやレストランなどがあり、買物や外食に大変便利なところです。
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>現在、高齢者施設入居者の9割以上が、認知症症状を有する。何らかの介護・支援を必要とする認知症高齢者（日常自立度Ⅱ以上）は、2015年には250万人に増加すると予測されている。居住環境について国は、2014年には介護老人福祉施設の個室ユニット化の目標を70%以上としている。しかし、既存の介護老人福祉施設では、入居しながらの改修は思うようにははかどらない。このような状況の中、従来型介護老人福祉施設は、どのように環境を見直していけばいいのだろうか。</p> <p>認知症ケアは、高齢者と取り巻く介護環境双方に働きかける必要がある。その中で、なじみの環境づくりに視点を置き、約2年前から環境づくりを行ってきた。しかし、十分とは言えないものであった。環境づくりを行なう中で、施設従事者がケア環境を見直す視</p>
---

<p>点とスキルを身につけ施設の環境改善を行なう「施設環境づくり支援プログラム」に出会い、環境づくりのツールとして取り入れ、環境改善をおこなっている。</p> <p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>環境を変えることにより、高齢者の生活の質を変えることができるだろうか。介護環境だけではなく、私たち介護者の視点も変えていくことにより、生活の質を変えることができるのではないかと考えた。そこで、「環境づくり支援プログラム」において、施設環境を「社会的環境」「運営的環境」「物理的環境」の3要素で捉え、その中で物理的環境に着目して、環境づくりに取り組んだ。これは、6ステップから構成されており、問題を発見し改善を行なうサイクルとして継続的に取り組んでいくものである。また、環境づくりのツールとして、「認知症高齢者への環境支援指針（PEAP）」の8次元を取り入れ、施設環</p>
---

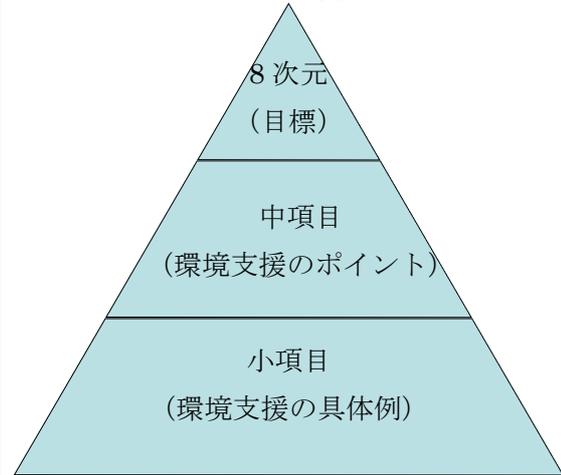
境づくりの基本視点として行なった。)

《具体的な取り組みの内容》

平成 20 年度、「なつかしの環境づくり」として、施設利用者のご家族様等から家にある昔ながらの品々を提供していただいた。認知症フロアに「なつかしの環境づくり」の一角を設け、憩いの場となった。なつかし(なじみ)の環境を作り、生活を豊かにする認知症ケアに取り組んだ。

しかし、利用する御利用者様は数人と固定し、あまり有効活用されていないことに気づいた。そこで、介護士を中心に施設長・介護係長・相談員等でプロジェクトチームを立ち上げ、日本社会事業大学社会福祉学部の教授等にアドバイスをいただきながら、認知症フロアの環境改善に取り組んだ。その中のツールとして「認知症高齢者への環境支援のための指針(PEAP 日本版)」の 8 次元(1.見当識への支援 2.機能的な能力への支援 3.環境における刺激の質と調整 4.安全と安心への支援 5.生活の継続性への支援 6.自己選択の支援 7.プライバシーの確保 8.入居者とのふれあいの促進)を取り入れ、環境づくりの視点として活用した。ワークシートとして、キャプションカード(評価法)を使用し、気づいたことを記入した。ご利用者様の視点に立つことにより、生活の質が向上できるように支援した。

PEAP の構成



《取り組みの結果と評価》

「環境づくり」に取り組むことで、認知症フロアの御利用者が自分の居場所を見つけることができた。また、施設従事者がケア環境を見直す視点とスキルを身につけることにより、より質の高いケアを同じ視点で行えるようになった。

《まとめ》

認知症ケアに、なじみの環境を取り入れ、生活を豊かにすることの他に、物理的環境に着目することにより、今までの生活習慣を利用者の視点に立ち、支援することができるようになった。他職種協働で行なう利用者視点の支援を今後も継続していきたいと思う。

《参考文献》

厚生労働省高齢者介護研究会「2015 年の高齢者介護」(2003 年 6 月)

《提案と発信》

認知症ケアを行うには、利用者の視点に立つことが重要である。ケア環境を見直す視点を持ち、環境を改善していくことが従来型老人福祉施設に求められている。他職種が協働して環境づくりを行ない、御利用者様が人間らしい住み慣れた生活を継続できるように支援していきたい。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。